

# Weekly コラム

令和2年10月20日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

## 活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

## 不朽の名作

『子供が生まれたら犬を飼いなさい。子供が赤ん坊の時は、子供の良き守り手となるでしょう。子供が幼い時は、子供の良き遊び相手となるでしょう。子供が少年期の時は、子供の良き理解者となるでしょう。そして子供が青年になった時、犬は自らの死をもって子供に命の尊さを教えるでしょう』

犬にまつわる有名な詩です。イギリスの古いことわざだといわれてきましたが、日本人による英訳は見つかるものの、英語の原典らしきものは見当たらないため、最近では日本発祥の詩ではないかと言われています。発祥はどこであれ、“命の尊さ”というものを教えてくれる素敵な言葉には変わりありませんね。

さて、「美しい姫君が月へと帰っていく物語」といえば、言わずもがな、『竹取物語』です。2013年にはスタジオジブリが映画「かぐや姫の物語」を公開し、話題になりました。日本人にとって馴染み深い『竹取物語』ですが、こちらも実は、作者不明の作品です。

原本は現存せず、明確な成立年も明らかになっていないものの、平安時代の書物『源氏物語』にて「物語の出で来はじめの祖(おや)なる竹取の翁」と書かれていることから、900年後頃には存在したとされます。辛口と言われた紫式部も絶賛する、日本最古の物語文学です。作者については諸説ありますが、時は藤原氏の全盛期。月の人が人間世界(当時の平安京)を皮肉っていることから、藤原氏によって排斥された名を明かせない立場ある人物・・・有力なのは「土佐日記」の作者として知られている紀貫之、学問の神様とされる菅原道真と言われています。

かぐや姫に求婚する5人の若者は、実在の人物をモデルにしたと言われていることから、『竹取物語』は、かぐや姫が富と権力を懲らしめるという、権力批判の物語とも読めます。当時、書物は一部の貴族だけが扱えるものでした。つまり『竹取物語』は一般大衆を想定読者にされたものではありません。それでも当時の人々の気持ちを深く掴んだからこそ、1000年以上の時を超え、今世まで語り継がれています。令和の現在はドラマ『半沢直樹』が一大ブームとなっています。こちらも悪の権力に対して「倍返し」でやり返す痛快さが共感を呼んでいますね。

日中はまだ暑さ厳しいものの、芸術を楽しむには良い夜風となってきました。9月9日は重陽の節句・・・別名「菊の節句」。不老長寿を願う日です。『源氏物語』にも、菊の花を使った長寿を願う平安時代の風習が描かれています。菊酒(菊の花を浮かべたお酒)に不老長寿の願いを込めつつ、不朽の名作に触れてみるのも良いのではないのでしょうか。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX 不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。